

尙右ノ爲要スレハ一部省區劃ノ變更ヲ行フモノトス

(四) 縣機構ノ充實

各縣特ニ國境接壤方面ニ於テハ特ニ防衛並作戰準備ニ即應スル機構ニ改組シ要スレハ一部縣行政區域ヲ變更ス

(五) 地方保安局ノ刷新充實

地方保安局ニ參與制ヲ設ケ所要ノ人的充實ヲ行フト共ニ其ノ指導ヲ適正化シ國境警察隊ノ刷新整備ト相俟テ保安局業務ニ關シ滿洲國一般警察、鐵道特殊警察其ノ他滿側一般關係官署ノ外滿鐵、電電ニ對スル統制力ヲ鞏化シ尙日本軍事警察機關トノ關係ヲ調節ス

十一、人事刷新

國境方面ニ於ケル人事ノ刷新充實ヲ圖リ清新潑刺ニシテ熱意アル人材ノ配置ヲ徹底化スルト共ニ原則トシテ第一期計畫實行期間中其ノ異動ヲ避ケ國境建設方策遂行ノ一貫性ノ保持ニ努ム

十二、經費

以上諸施策ニ伴ヒ各機關毎ニ追加豫算又ハ別途支出ノ方途ヲ以テ第一期計畫ヲ檢討ノ上所要經費及物資ヲ整備ス

第四章 滿洲國財政關係

第一節 滿洲國國債引受方ニ關スル件

十月二十五日駐日滿洲國大使阮振鐸ヨリ野村外務大臣宛同國滿洲重工業開發株式會社ノ今年中ノ社債發行豫定額中二〇、〇〇〇、〇〇〇圓ヲ大藏省預金部ニ於テ引受方依頼シ來レルヲ以テ當方ヨリ大藏省預金部資金局長宛通牒シ置キタル處十月三十一日附ヲ以テ大藏省ヨリ額面二千萬圓ヲ限リ同社社債ヲ買入ルコトニ決定シタル旨通牒越シタルニ付右ノ旨駐日滿洲國大使館宛通報シ置キタリ

第五章 滿洲移民問題

昭和十三年末以來日滿關係機關内部ニ於テ移民政策ノ根本的調整ヲ圖ラントスル企圖アリタルカ右ハ急速ニ具體化シ軍側主體トナリテ作成セル移民根本國策基本要綱ヲ中心ニ十二月十日、關東軍、日本大使館、滿側關係機關會同シ

- 一、移民事業處理機關問題
- (イ) 移民關係行政機構ノ一元の擴充
- (ロ) 滿拓改組、鮮拓統合
- (ハ) 拓植委員會
- (ホ) 移民行政ノ人的關係等
- 二、移民區分及入植要領
- 三、移民用土地ニ關スル問題
- 四、民族協和ニ關スル問題
- 五、移住地行政經濟機構
- 六、農業經營及生活様式
- 七、青年義勇軍
- 八、財政經濟問題
- 九、輸送宣傳及民間後援
- 一〇、教育文化社會宗教等
- 一一、日本側ノ措置
- 一二、日滿協定並補助法

ノ十二部門ニ互リ各分科委員會ヲ設ケ詳細檢討審議ノ結果昭和十四年一月七日ヨリ三日間ニ互リ日本側參列者ヲ迎ヘ日滿連絡會議ヲ開催シ移民根本政策要綱ヲ決定セルカソノ要旨左ノ通ナリ

一、移民事業處理機關問題

(イ) 移民關係行政機構ノ一元的擴充ヲ目標ニ從來ノ産業部拓政司ヲ廢シ新ニ外局トシテ開拓總局(中央ニ)開拓廳(省ニ)ヲ新設シ縣開拓機構ノ整備充實ヲ圖ルコト及新ニ總務廳企業委員會ニ政策別委員會ノ一トシテ

開拓委員會(假稱)ヲ設置スルコト

(ロ) 滿洲拓植公社ハ本來經濟助成機關ニ過キサリシ處客年青年義勇軍入植ト共ニ其ノ訓練教學等ノ行政事務ヲ行フコトナリタル結果其ノ目的ニ於テ當初ト大イニ異ナルモノアルニ至レルコト

(ハ) 滿拓ヲ滿洲特殊法人タラシメ從ツテ滿拓委員會ヲ廢シ新ニ條約ニ依リ日滿兩國同數ノ委員ヨリナル日滿共同委員會ヲ設置シ連絡調整ニ當ラシム

(ニ) 日滿移民處理機關相互ノ人員交流ヲ行フコト

二、移民用地ノ取得利用ヲ國營主義トスルコト

三、從來滿拓公社カ未利用地ヲ買收スル場合兎角功ヲ焦リ原住民ノ利害ヲ無視シ從テ原住民ト多大ノ摩擦ヲ生シタルヲ根本的ニ調整シ原住民ノ利益擁護ノ爲適正ナル措置ヲ講スルコト

四、協和會ヲ出來ル限リ利用活動セシムルコト

五、移民渡航ノ幹旋、輸送、宿泊、宣傳及民間ノ後援ニ關シ積極的對策ヲ講スルコト

六、内地移民ト朝鮮移民ト同一國策移民トシテ取扱ヒ唯民度等ニ應シ夫々適宜措置スルコト
七、青年義勇軍ノ徹底的擴充
右滿洲現地側ノ意嚮ニ對應シ昭和十四年三月十七日對滿事務局一部事務官會議ニ於テ本移民問題ニ關シ左記要綱ノ決定ヲ見タリ

一、方針

二、要領

東亞ノ新事態ニ即應シ滿洲移民方針ニ再檢討ヲ加ヘ移民國策ノ進展ヲ期スルモノトス

(イ) 之カ爲關係各機關ノ總力的協同下ニ昭和十四年一月十日附滿洲現地案「滿洲開拓根本政策基本要綱」ヲ基礎資料トシテ各般ニ亘リ調査審議ヲ遂ケ可及の速ニ成案ヲ得ル様努ムルモノトス

(ロ) 日滿移民問題懇談會ヲ開催シ右ニ關スル方針ノ審議協定ヲ行フモノトス

(ハ) 臨時滿洲移民審議會ヲ設置シ右ノ結果ニ基キ關係各方面ノ總意的決定ヲ爲スモノトス

三、措置

(イ) 日滿移民問題懇談會ハ昭和十四年初頭ニ於テ其ノ第一次會同ヲ開催スルモノトシ參加スヘキモノ概ネ左ノ如シ

日本側
拓務大臣
對滿事務局總裁
內閣書記官長

法制局長官
對滿事務局次長
企畫院次長
關係各省次官
朝鮮總督府政務總監

學識經驗アル者
滿洲側
日本側參加者ニ準シ滿洲側ニ於テ適宜決定スルモ
ノトス

(ロ) 右懇談會ニ提出スヘキ素案作成ノ爲可及的速ニ關係各廳高等官並民間關係者ヲ以テ組織スル準備委員會ヲ設
クルモノトス

(ハ) 準備委員會ハ之ヲ分科會ニ分チ素案ノ概成ニ當ルモノトス
準備委員ヲ依頼スヘキ範圍概ネ左ノ如シ

- | | |
|-------|----------|
| 内閣官房 | 農林省 |
| 法制局 | 商工省 |
| 對滿事務局 | 遞信省 |
| 企畫院 | 鐵道省 |
| 外務省 | 拓務省 |
| 內務省 | 厚生省 |
| 大藏省 | 朝鮮總督府 |
| 陸軍省 | 滿洲移住協會 |
| 海軍省 | 滿洲拓植公社 |
| 司法部 | 鮮滿拓殖株式會社 |
| 文部省 | 學識經驗アル者 |

(ホ) 準備委員會ハ素案ノ概成ニ當リ必要アルトキハ滿洲國側關係者ノ參加ヲ求メ研究討議ヲ行フモノトシ尙ホ要
スレハ準備委員以外ノモノノ參加ヲモ求ムルコトアルモノトス

(ヘ) 臨時滿洲移民審議會ハ之ヲ内閣ニ置クモノトシ其ノ構成概ネ左ノ如シ

- | | | |
|-----|---------|-----------|
| 會長 | 總理大臣 | 對滿事務局次長 |
| 副會長 | 拓務大臣 | 關係各省次官 |
| 委員 | 對滿事務局總裁 | 朝鮮總督府政務總監 |
| | 內閣書記官長 | 學識經驗アル者 |
| | 法制局長官 | 關係各廳高等官 |
| | 企畫院總裁 | 學識經驗アル者 |

斯クテ右要綱決定ノ趣旨ニ基キ、關係各廳及ヒ民間權威者ヲ網羅シ左記順序ニ依リ本問題ヲ根本的ニ研究スルコ
トトセリ

- 1 準備委員會
 - 2 日滿移民問題懇談會
 - 3 臨時滿洲移民審議會 (官制ニ據ル)
- 爾來約八ヶ月ニ互リ右審議會ニ於テ慎重審議研究ノ結果同年十一月ニ至リ本問題ニ關スル左記根本方策ノ答申ヲ
爲スト同時ニ別記ノ如キ基本要綱ヲ決定セリ、同時ニ右根本方策ノ實行方ニ就テハ十二月四日閣議ニ於テ之ヲ決
定ヲ見タリ

現下ノ諸情勢ニ鑑ミルニ滿洲開拓民ニ關スル根本方策ハ別冊滿洲開拓政策基本要綱ニ依リ之ヲ積極的ニ遂行スルノ要緊切ナルヲ認ム

尙近時國內ニ於テハ各方面ヲ通シ勞務要員充備ノ急ヲ訴アルモノアリト雖モ此ノ際政府ハ極力既定ノ大量開拓民計畫ノ實施ヲ促進スルト共ニ青少年義勇軍ノ送出ニ付テモ其ノ數ヲ増加スル等更ニ積極的方途ヲ講スルノ要アルモノト認ム

54

附 帶 決 議

基本要綱第二基本要領ノ七及八ノ(六)第一項ハ夫々左ノ各號ニ依リ考究及實施ニ當ルヘキモノト認ム

一、開拓民ノ農業經營ハ家族の勞作主義ニ據ル獨立自營ノ組織ヲ確立スルヲ目的トシ其ノ運營上可及的の多ク協同組織ヲ加味シ開拓地ノ自然的經濟的の並社會の事情ニ即應シテ開拓民ノ生活及經濟ノ安定ニ資シ兼テ國家の須要ナル農業生産ヲ舉クルニ適スル如キ營農型態ヲ採ラシムルモノトス

二、集團及集合開拓農民ノ農業經營ニ關シテハ家族の勞作主義ヲ基礎トシ全體の協同經營ヨリ逐次個人經營ニ移行スルヲ原則トス但シ個人經營ニ移行後ニ於テモ可及的の協同事業ヲ加味シ特ニ機械利用ノ協同作業又ハ必要ナル鮮滿人トノ合作等ニ關シ考究スルモノトス

拓總第一〇七九號

滿洲開拓ハ日滿不可分關係ヲ基底トセル東亞新秩序建設ノ根幹ニシテ日滿兩國ニトリ國防上經濟上刻下喫緊ノ要

SP. 325

務タリ

今般臨時滿洲開拓民審議會ニ於テ答申シタル滿洲開拓民ニ關スル根本方策ハ其ノ要旨適切ト認メラルヲ以テ政府ハ速ニ其ノ實行ヲ期スルト共ニ之カ遂行ニ付一般國民ヲシテ全面的協力ヲ爲サシムルノ方途ヲ講スヘキモノトス

右開議ヲ請フ

昭和十四年十二月四日

内閣總理大臣 阿 部 信 行
 拓務大臣 金 光 庸 夫

55

内閣總理大臣 阿 部 信 行 殿

滿洲開拓政策基本要綱

第一 基 本 方 針

滿洲開拓政策ハ日滿兩國ノ一體的重要國策トシテ東亞新秩序建設ノ爲ノ道義的新大陸政策ノ據點ヲ培養確立スルヲ自途トシ特ニ日本内地人開拓農民ヲ中核トシテ各種開拓民並原住民等ノ調和ヲ圖リ日滿不可分關係ノ鞏化、民族協和ノ達成、國防力ノ増強及産業ノ振興ヲ期シ兼テ農村ノ更生發展ニ資スルヲ以テ目的トス

第二 基 本 要 領

一、基本方針ニ則リ日滿兩國各分擔部門並協力部門ノ各責任範圍ヲ明カナラシムルト共ニ其ノ間一貫セル脈絡ヲ

四九

SP. 325

保持シ以テ日滿兩國ヲ貫ク滿洲開拓政策ノ統制アル發展並圓滑ナル實施ヲ期スルモノトス

二 開拓民ノ種別概テ左ノ通トス

(一) 日本内地人(朝鮮人ハ之ニ準ス)

(イ) 開拓農民

(ロ) 半農的開拓(林業、牧畜、漁業等)

(ハ) 商、工、鑛業其ノ他ノ開拓民

(ニ) 開拓青年義勇隊

(二) 原住民

(イ) 國內開拓移動原住民

(ロ) 開拓民移住ニ伴フ輔導原住民

三 各種開拓民ノ數的擴充ヲ期シ其ノ調和ヲ圖リ之カ實行ヲ促進ス

四 開拓民ノ指導ニ關シ滿洲ニ於テハ開拓政策遂行ノ一元化ヲ圖リ開拓用地ノ整備、利用開發及配分、營農方式、開拓民移住、原住民輔導等ニ付刷新の方途ヲ講シ特ニ開拓諸機構ヲ調整シ開拓民取扱ニ關スル責任分野ヲ明カ

ナラシムルト共ニ其ノ綜合的機能ノ發揮ニ努ムルモノトス

五 開拓民ノ移住ニ付テハ各種開拓民ノ按配ヲ適切ナラシメ日本内地人開拓民ハ差當リ原則トシテ北滿方面ヲ主トスルノ外全滿ニ於ケル交通、産業開發上ノ重要地點ニ定著セシムルモ理想トシテハ廣ク分布シ各地ニ於ケル

民族協和ノ中核的分子タラシムルコトヲ期ス

尙朝鮮人開拓民ノ移住、在滿朝鮮人ノ安定、原住民ノ轉住及其ノ國內開拓移動ニ付更ニ積極的ナル助成輔導ノ

方途ヲ講ス

六 開拓用地ノ整備、利用開發、配分等ニ關シテハ概テ左ノ要領ニ依ル

(一) 開拓用地ノ整備ニ關シテハ原則トシテ未利用地開發主義ニ依リ之ヲ國營トス

右ノ開拓用地ハ之ヲ國家ニ於テ管理シ其ノ方法ニ付テハ適宜有效適切ナル措置ヲ講スルモノトス

(二) 開拓用地ノ利用開發ニ付テハ濕地干拓、「アルカリ」地ノ利用、森林原野ノ開拓等ヲ積極的ニ遂行スルモノトス

特ニ治水、利水、干拓事業等ノ機能及其ノ運營、取得土地ノ暫定的利用方策及開拓地區内ノ資源開發ト開拓

事業トノ調整ニ著意ス

(三) 開拓用地ノ配分ニ付テハ其ノ利用區分ヲ適正ナラシムルト共ニ團又ハ開拓農家ニ配分セル土地ニ對シテハ

自由ナル私有權制度ニ據ルノ適當ナラサルニ鑑ミ適切ナル規制ヲ設ケ營農ノ根據ヲ確固ニシ以テ開拓目的ニ

即應スル理想的農村ノ建設ヲ庶幾ス

之カ爲開拓農地制度ヲ確立シ其ノ適用ノ範圍ハ原則トシテ開拓用地トス

七 開拓民ノ農業經營ニ就テハ開拓地ノ自然的經濟的條件ヲ考慮シ之ニ即應スル營農型態ニ據ラシメ大陸新農法

ノ積極的創成ヲ目途トス

八 日本内地人開拓農民ノ指導ニ付テハ滿洲開拓政策ノ核心トシテ特ニ其ノ哺育發達ヲ期スル爲土地、擔稅、移住型態ト民族混住行政經濟機構、農業經營等各般ノ事項ニ付開拓目的ニ即應スル如ク基礎制度ヲ確立スルモノトス

其ノ指導概ネ左ノ要領ニ依ル

- (一) 開拓用地ノ管理配分ニ付テハ國家、團及開拓農家間ノ移行關係等ヲ適切ニ規制シ農民ノ特性ニ鑑ミ土地ノ永代世襲的確保ヲ圖ルト共ニ其ノ所有型態ヲ定ム
 - (二) 擔稅ニ關シテハ開拓農民及之ニ伴フ轉住原住民ニ對スル減免ノ措置ヲ講スルト共ニ物納主義ノ併用ニ關シテ考究ス
 - (三) 開拓農民ノ移住型態ニ關シテハ集團、集合及分散ノ型態ニ區分シ集團型態ニ付テハ集團移住、協同經營ノ概成ヨリ進ンテ自給自足經濟ヲ確立ヲ圖ルト共ニ原住民部落トノ混成村ノ完成ヲ庶幾シ集合型態ニ付テハ集團型態ニ準シ集合部落ノ概成ヲ、分散型態ニ付テハ開拓農家ノ自立ヲ目途トシ各型態トモ原住民ヲ包容融合セシムル如クス
 - (四) 開拓地ノ行政經濟機構ニ關シテハ開拓團カ團長ヲ中心トスル農村協同體タルニ著意シ開拓事業ノ圓滑ナル遂行ニ即應スル如ク措置スルト共ニ原住民トノ共存共榮ノ關聯ヲ考慮シ合理的且有機的ニ滿洲國制度下ニ融合歸一セシムルモノトス
- 之カ爲集團開拓地ニ付テハ行政機構ハ街村制ニ據ラシメ經濟機構ハ協同組合ヲ結成セシメ之カ一元の運用ノ

SP. 325

58

方途ヲ講スルモ移住後概ネ五年ハ街村制其ノ他諸制度ノ適用及運營ニ付特別ノ考慮ヲ拂フト共ニ開拓地建設ノ圓滑ナル遂行ヲ期スル爲特殊法人(假稱開拓團)ヲ結成セシメ可及の速ニ一般行政經濟機構ニ吸收移行セシムルモノトス

其ノ他ノ開拓地ニ關シテハ原則トシテ特殊行政經濟機構ヲ構成セシムルコトナク當該地方關係機構ニ吸收セシム

(五) 開拓政策遂行上ノ必要ニ基キ開拓團ニ指導員ヲ設クルモノトシ日滿兩國協議ノ上之ヲ定ムル様適宜措置スルモノトス滿洲國ニ於ケル諸機構上ノ公ノ身分ハ右指導員及其ノ他ノ開拓團幹部中必要ナル者ニ就キ之ヲ保有セシムルモノトス

(六) 集團及集合開拓農民ノ農業經營ニ關シテハ家族の勤勞主義並に部落的協同勤勞主義ヲ目途トシ其ノ型態ニ付テハ自作農ヲ主眼トシ協同經營ヲ加味シ特ニ集團開拓農民ニ付テハ機械營農併用ノ協同經營又ハ必要ナル鮮滿人トノ合作等ニ關シテ考究ス

尙集團、集合開拓地ニ於ケル經營ニ付テハ全體の協同經營ヨリ個人經營ヘノ分化移行要領及之カ有機的相關關係並に經營指導ノ要領ヲ確立ス

分散開拓農民ノ農業經營ニ關シテハ適地適應主義ニ依リ自立自活ノ方途ヲ講シ自作農ヲ設定スルコトニ努ム

右各項ニ關聯シ各種協同機構、備荒制度及農業金融機構ニ付適切ナル機能ヲ整フルト共ニ農法、農機具、農

SP. 325

59

産加工、副業等ニ付考究ス

(七) 開拓農民ノ衣食住、保健及生活様式ニ關シテハ大陸の新環境ニ即應スル様適切ナル方途ヲ講スルモノトシ

適地適應主義ニ則リ其ノ綜合的改善ヲ期スルモノトス

(八) 醫療ニ關シテハ各地醫療機關ヲ整備シ其ノ經營ヲ合理化シ開拓民醫療ノ萬全ト醫療費負擔ノ輕減ヲ期スルモノトス

(九) 開拓農民移住後其ノ經濟的基礎確立ニ至ル間ニ於テ死亡等ノ場合其ノ遺族等ヲ救済スル爲メ共濟制度ヲ設ク

ルモノトス

(十) 移住準備ニ關シテハ開拓地ノ調査選定並其ノ設定計畫ヲ確立スルト共ニ先遣隊制度ノ運用ニ付考究スルモノトス

(十一) 前各號ニ關聯シ輔導助成ニ付更ニ適切ナル措置ヲ爲スモノトス

九 朝鮮人開拓農民ノ指導ニ付テハ開拓政策ノ方針ニ則リ全體の計畫ノ下ニ集合及分散ヲ主義トシテ輔導安定セ

シメ集團開拓農民ハ優秀ナルモノニ付之ヲ行ヒ差當リ朝鮮内ヨリノ移住ヲ適宜統制スルト共ニ在滿朝鮮人ノ安

定ニ付考慮スルモノトス

右ニ伴フ指導一般ノ要領ハ各其ノ區分ニ應ジ日本内地人開拓農民ノ例ニ準スルモ其ノ實情ニ鑑ミ適宜按配ヲ加

ヘ其ノ目的達成ニ遺憾ナカラシムルモノトス

十 原住民ノ國內開拓移動ニ關シテハ集約的農業經營ノ指導ト相俟テ全體の計畫ノ下ニ之ヲ輔導統制ス

開拓民ノ移住ニ伴フ原住民ノ輔導ニ關シテハ開拓民ノ移住ニ依リ可成之ヲ移轉セシメサルヲ原則トシ已ムヲ得

ス移轉セシムル場合ハ物心兩方面ヨリ其ノ生活安定ノ途ヲ講ス

十一 滿洲國産業開發計畫、軍事建設等ト照應シ開拓農民ノ外日本内地人ノ半農の開拓民及商、工、鑛業其ノ

他ノ開拓民ノ計畫ヲ樹立シ其ノ實行ヲ促進ス

右開拓民ニ付テハ開拓農民トノ關係調整ニ留意ス

朝鮮人ニ關シテモ必要ニ應ジ之ニ準シ處理スルモノトス

十二 開拓青年義勇隊ハ主トシテ日本内地人青少年ヲ以テ之ヲ結成シ民族協和ノ中核トシテ滿洲國ノ生成發展ニ

寄與スヘキ各種開拓民特ニ開拓農民ノ基底タルノ資質ヲ育成訓練シ以テ日滿不可分關係ノ鞏化ニ資スルモノト

シ特ニ其ノ重要性ニ鑑ミ之ヲ指導及經營ニ關スル方策ヲ確立ス其ノ要領概テ左ノ通トス

(一) 管理運営ノ主體ヲ確定ス

(イ) 滿洲開拓青年義勇隊訓練本部ヲ新京ニ設置ス

(ロ) 訓練本部ハ之ヲ日滿兩國開拓關係機關ノ協力合作ニナル指導統制機關タラシメ義勇隊訓練ノ一貫的指導

統轄ニ當ルモノトス

(ハ) 訓練本部長ハ日滿兩國政府ノ協議決定セル者ヲ以テ之ニ充ツルモノトス

(ニ) 基本訓練所ハ訓練本部之ヲ經營スルモ其ノ指導訓練、施設管理等ニ關シテハ前記合作各機關ノ機能ヲ有

效ニ發揮セシムル様措置スルモノトス

(ホ) 其ノ他ノ訓練所ノ施設、管理及運営ハ夫々適當ナル機關ヲシテ之ニ當ラシムルモノトス

(二) 訓練所ノ種別、態様ヲ確定ス
基本訓練所ト實務訓練所トニ分チ後者ヲ左ノ如ク區分ス
(イ) 訓練修了後集團開拓農民トシテ當該訓練地ニ定著セシムルコトヲ目標トスルモノ
(ロ) 訓練修了後開拓農民トシテ他地方ヘ移住セシムルコトヲ目標トスルモノ
(ハ) 技術其ノ他ノ特殊訓練ヲ施スモノ

(三) 日本ニ於ケル募集訓練ヨリ現地訓練及定著ニ至ル迄脈絡一貫セル指導精神ヲ保持シ内地訓練、現地各種訓練ヲ實施ス

(四) 青年義務隊中ニ各民族ヲ包含シ協同訓練セシムル様工夫ス

(五) 青年義務隊ト少年工要員ノ募集訓練ニ關シテハ統制聯繫ノ方途ヲ講スルモノトス
十三 一般開拓民ノ訓練ハ其ノ心身ヲ鍛鍊陶冶シ、特ニ八紘一字ノ理想、滿洲建國ノ精神ヲ振作涵養シ滿洲開拓政策ノ本義ヲ體得セシメ併セテ開拓地ノ建設及經營ニ必要ナル技術ヲ授クルヲ主眼トス

其ノ訓練所ハ日本及滿洲ニ設置スルモ開拓民ノ區分ニ應シ其ノ經營様式、訓練其ノ他ニ關シ適宜考慮ヲ加ヘ目的達成ニ遺憾ナカラシムルモノトス
十四 指導員ハ汎ク之カ適格者ヲ簡拔スルモ特ニ之カ要員ノ確保ノ爲開拓ニ關スル教育施設ノ擴充ヲ圖ルト共ニ日本及滿洲ニ訓練養成施設ヲ設置シ其ノ實質ノ向上ヲ期スルモノトス

十五 開拓民移住及原住民轉住輔導ニ關シテハ民族協和具現上特ニ滿洲帝國協和會ノ活動ヲ促進シ其ノ機構及運営ハ各種開拓民ノ特性及開拓事業ノ進展等ノ實情ニ即應セシム

尙開拓民ト原住民トノ社會生活ニ於ケル民族協和ノ實現ニ付特別ナル工夫ヲ拂フモノトス

十六 日本ニ於テハ滿洲開拓民ノ募集、銓衡、訓練、送出、助成及保護ニ付合理の方途ヲ講シ特ニ官民一途ノ總力ヲ參畫寄與ヲ圖リ努メテ資質優良ナル者ノ大量移住ノ圓滑ナル遂行ヲ期スルモノトス
之カ爲特ニ措置スヘキ事項概ネ左ノ通トス

(一) 滿洲開拓ニ關スル教育ハ皇道精神ノ涵養ヲ目途トシ滿洲建國ノ本義ヲ明カナラシムルト共ニ滿洲開拓ニ關スル諸般ノ智識技能ヲ授ケ以テ旺盛ナル開拓精神ヲ培養シ社會教育ニ於テハ特ニ實踐的方面ニ留意スルモノトス

(二) 開拓民大量送出ヲ容易ナラシメ且開拓團組織ノ健全ナル發達ヲ促進スル爲内地農村ノ恒久的更生並開拓政策ノ趣旨ニ照應シ鄉村單位ノ計畫的組織的團體移住ニ付有效適切ナル措置ヲ講スルモノトス

(三) 負債ノ爲移住困難ナル開拓希望者ニ對シテハ其ノ負債整理計畫ノ樹立ヲ指導スルト共ニ極力負債ノ條件緩和及財産ノ有利ナル處分ノ斡旋等ニ努メ以テ移住ヲ容易ナラシムルモノトス

(四) 開拓民ノ未招致家族ニ對シテハ能ク限リ隣保相助ノ精神ニ則リ之カ生活維持ニ努メシムルモ尙生活ヲ維持スルコト能ハサル者ニ對シテハ扶養ノ方途ヲ講シ開拓民ノ不安ヲ除去シ滿洲開拓政策ノ順調ナル遂行ニ資スルモノトス

十七 旺盛ナル開拓思想ヲ培養スルト共ニ開拓地ニ於ケル人口構成ノ階調的進展ヲ期スル爲汎ク女性一般ニ對シ

積極的進出ヲ鼓吹スヘキ有效適切ナル施設ヲ行フモノトス

日本各地ニ互リ開拓民配偶者養成施設ヲ整備スルト共ニ其ノ女子指導者ノ養成訓練施設ヲ設クルモノトス

十八 開拓關係機關ニ關シテハ日滿兩國夫々當該行政機構ノ整備擴充ヲ行ヒ關係機關トノ連絡ニ付適切ニ處置ス

ルト共ニ開拓政策ニ關スル重要事項ノ處理ニ付テハ日滿兩國政府緊密ニ協議連絡スルモノトス

十九 開拓政策ノ調整ニ伴ヒ滿洲拓植委員會ノ運營ニ關シテハ適宜之ヲ規制スルト共ニ當該事務局ノ事務量ノ増

加ニ伴ヒ必要ニ應シ所要人員ヲ増加スルモノトス

右ニ伴ヒ委員、臨時委員ノ構成ニ付テハ之ヲ調整ス

二十 滿洲拓植公社ヲ改編シ滿鮮拓植會社ヲ統合シ其ノ機能ヲ調整スルト共ニ開拓事業ノ一元化ヲ圖リ各種開拓

民ニ對スル公正ナル輔導助成ト民族協和ノ積極的達成ヲ期セシム之ト共ニ開拓事業ニ關スル金融、物資配給等

ニ付テハ全一的統制ノ下ニ各種開拓民ノ特性ニ應シ適切ナル方途ヲ講スルモノトス

二十一 滿洲開拓政策カ日滿不可分關係ヲ基調トセルニ照シ日滿兩國ハ文化的協調、人事ノ交流、資金ノ調

達、馬其ノ他家畜資源、飼料原料其ノ他ノ物資ノ供給等形而上下ニ互リ協調提携スルモノトス

二十二 日滿兩國間ノ負擔ニ關シテハ日滿不可分ノ關係及開拓政策ノ兩國一體の國策タルニ鑑ミ又滿洲國ニ於ケ

ル各民族間ノ負擔ニ關シテハ開拓政策ノ趣旨及民族協和ノ本義ニ則リ各形而上下ニ於テ合理的且均衡ヲ得ル様

調整スルモノトス

日滿兩國政府ノ經費負擔區分ニ關シテハ概ネ左ノ要領ニ依ル

(一) 日本人開拓民ニ關シテハ原則トシテ日本國內ニ於テ要スル經費及簡別補助ハ日本政府、共同補助ハ日滿

兩國政府同額負擔シ滿洲國內ニ於ケル施設及助成ハ滿洲國政府之ヲ負擔ス

青年義勇隊ニ關シテハ日本國內ニ於テ要スル經費及渡航費ハ日本政府ニ於テ負擔シ滿洲國內ニ於ケル施設及

助成ハ日滿兩國政府同額負擔トス

(二) 日滿兩國政府ノ補助ニ關シテハ從來ノ實績ニ徴シ其ノ程度、内容及方法ニ付合理的ニ之ヲ調整スルモノト

シ開拓地ニ對シ滿洲國政府ノ行フヘキ施設ハ可及ニ移住前之ヲ整備シ置クモノトス

二十三 開拓民ニ對スル金融ニ關シテハ組織アル統制ノ下ニ民度及各種開拓民ノ特性ニ應シ其ノ機構ヲ調整スル

ト共ニ融資ノ豊富、低廉且敏速ヲ圖ルモノトス

二十四 開拓地ニ於ケル子弟ノ教育ニ關シテハ滿洲ニ於ケル日滿兩國ノ教育一般方針ニ則リ且開拓政策ノ趣旨ニ

照應シ教育内容、施設、經營、教師ノ養成補充等ニ付特別ノ考慮ヲ拂フモノトス

二十五 開拓地ニ於ケル神社、宗教及文化施設ニ付諸般ノ方策ヲ講シ又厚生施設ニ付テハ適地適應主義ニ則リ其

ノ整備ヲ期スルモノトス

二十六 開拓民ノ警防的意義ニ鑑ミ兵役其ノ他兵事制度ニ付考究スルト共ニ開拓團防衛ニ關スル諸施設ヲ充實ス

ル如ク努ムルモノトス

第三處 置

五九

SP. 325

65

五八

64

SP. 325

一 以上各種事項ニ關シ滿洲拓植公社設立ニ關スル協定書ノ了解事項、公社定款等ニ關シ適當ノ調整ヲ加ヘ尙必要ナル事項ハ日滿兩國間ノ適宜ナル取極等ヲ以テ措置スルモノトス

二 昭和十五年(康徳七年)ヨリ新體制ニ移行シ得ルコトヲ目途トシ所要ノ準備ヲ爲スモノトス

第六章 鐵道交通關係

第一節 鐵道關係

昭和十四年中ニ於ケル主ナル鐵道關係事項左ノ如シ

一、營業開始線

綏寧線(綏陽—東寧)	九六・二軒	本假營業	十二月一日
佳蓮線(佳木斯—蓮花口)	一一・七軒	假營業	八月一日
梅輯線(黃柏—輯安)	三二・五軒	假營業	九月一日
通道線(鴨園—八道)	三七・七軒	假營業	九月二十五日
東滿線(訓戎—琿春)	一四・三軒	假營業	十月二十五日
溪城線(牛心臺—田師付)	六九・四軒	假營業	十一月一日
神帶線(神樹—帶嶺)	六〇・〇軒	假營業	十一月一日
鶴崗線(蓮花口—興山鎮)	五二・三軒	假營業	十二月十六日

SP. 325

龍青線(龍井—青道)

五一・三軒

假營業

十二月二十六日

二、滿浦鎮鐵道橋開通ニ關スル件

滿浦鎮鐵道橋建設ニ關シテハ曩ニ昭和十二年四月五日安東駐在帝國領事及滿洲國財政部大臣間ニ交換セル覺書ニ依リ昭和十四年九月十八日竣工ヲ見タルモノニシテ同月二十八日朝鮮總督府ハ滿鐵ト合同滿浦驛構内ニ於テ滿浦、梅輯兩線ノ全通式ヲ舉行シタル次第ナル處同橋竣工ノ結果覺書第二ノ豫定經費ハ物價騰貴ノタメ十一萬圓ヲ超過セルニ依リ朝鮮總督府及滿鐵ニ於テ協議ノ結果双方ヨリ夫々右覺書第二ヲ修正、超過額ヲ折半負擔スルコトトシ全通式當日朝鮮總督府政務總監及滿洲國交通部大臣間ニ調印ヲ了セリ

三、建設中

(1) 三河線敷設計畫

滿洲國政府林野局ハ森林資源開發ノタメ昭和十三年十月ノ國境建設設計畫ニ附隨シテ濱州線扎羅木特驛ヲ基點トシ根河ヲ終點トスル(第一次建設)全長約一五〇軒ノ森林鐵道三河線ヲ敷設スヘク之カ豫算約六百萬圓ヲ以テ本年五月中旬以來細部ノ地測調査ヲ實施シ六月下旬林野局直接監督ノ下ニ神谷組ヲシテ着工、本年中心敷設完了セシムル豫定ナリ

尙本鐵道ハ軌道幅員二呎六吋、三十噸機關車ヲ基準トスルモ國境方面ノ事端發生ニ際シテハ軌道ヲ擴張シテ直チニ濱州線運行中ノ客貨車ヲ引込ミ得ル如ク計畫セラレアリ

SP. 325

67